

AGU 青山学院大学 NEWS No. 36

AGUニュース第36号
[2007年4月～5月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111 (代表)
URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



青山キャンパス ガウチャー・メモリアル・ホール

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

座談会

相模原キャンパス開学からの4年間を振り返って

AGU TOPIC

理工学研究科重里研究室の院生が国内外の学会で高評価
国内外で注目される理工学研究科橋本研究室の取り組み

- 「電波吸収体」に関する各企業との共同研究・開発
- アジア最大の国際会議で「APMC2006 Prize」受賞

TOPICS

2006年度の進路・就職状況について
韓国・慶南大学との学術協定調印
教育クオリティ向上を図るFD活動

報告・お知らせ

アドバイザー・グループに入ろう!
2007年度 学年初頭行事について(抜粋)

誌上公開講座

テーマ別科目 身体の技能
「健康医学」

INFORMATION

2007年度センター試験・一般入試志願者数
2007年度オープンキャンパス開催日程



司会
副学長(総務担当)
魚住 清彦

座談会

出席者



副学長(学務・学生担当)
青山スタンダード 教育機構長
仙波 憲一



経営学部経営学科1年
高秀 聡 君



文学部英米文学科2年
神田 朋奈 さん



国際政治経済学部国際経済学科4年
菊田 愛美 さん



理工学部情報テクノロジー学科3年
青木 宏文君



2003年4月、人文・社会科学系学部の1・2年生と、大学院を含む理工学部全学生が学ぶ「相模原キャンパス」が開学。本学は「青山」「相模原」の2キャンパス制の大学となりました。それから4年が経った現在、在学生が相模原キャンパスについてどのように過ごし、何を感じてきたのか?……学部1～4年生に聞きました。

相模原キャンパスの 第一印象と 入学後の感想について

魚住 青山学院大学には、大学院生を含めおよそ2万人強の学生が在籍していますが、そのうち人文・社会科学系学部1～2年生と理工学部の全学部生・大学院生の計約1万人が相模原キャンパスで学んでいます。相模原キャンパスは、それまで人文・社会科学系学部の1～2年生が学んでいた厚木キャンパス、理工学部の世田谷キャンパスを統合する形で、2003年4月に開学しました。

本日、ここに集まっていた学生のみなさんは、相模原キャンパス開学からの第1～4期生。この4年間、教職員が力を合わせて新しい青学の歴史を創るという意気込みで教育・研究に取り組んできましたが、学生のみなさんがこのキャンパスの教育環境や教育体制についてどう感じているかを、仙波副学長を交えてうかがっていきたいと思います。ではまず、みなさんの相模原キャンパスに対する第一印象と入学後の感想を聴かせてくれませんか?

高秀 北海道出身でオープンキャンパスに参加できなかった僕は、経営分野が学べる東京の大学をさがしていました。その中で「経営」と名が付く学部をもっていたのが青山でした。私にとって、「青山学院大学」といえば渋谷」というイメージが強かったのですが、初めて相模原キャンパスを見た時は、その広大さに思わず感動してしまいました。現在、キャンパスの近くで一人暮らしをしていますが、淵野辺周辺はとても暮らしやすい街だと思います。入学後、いきなり英語テストがあったのには驚きました。さすが「英語の青山」です。

仙波 キャンパスが広すぎて、どの校舎に行けばいいのか迷ってしまうことはありませんか?

高秀 最初は迷いそうに思えたのですが、正門から続くプロムナードに、校舎の場所を示す看板がありますので、それほど戸惑わずにすみしました。

神田 私は、オープンキャンパスで初めて相模原キャンパスに来て、「ぜったいこの大学に入ろう!」と決心しました。実はその時まで志望校選択で迷っていたのですが、自分が希望していた英語学が学べる上に

れを運営する青山スタンダード教育機構の総称です。学生のみなさんは短く「青スタ」と呼んでいますね。さて現在、社会のあらゆる分野で「文理融合」したクロスオーバーな知性が求められています。「青山スタンダード」は、新しい社会の創造に貢献する優れた人間の養成を目指しています。そのため、フレッシュャーズ・セミナーや総合科目など、数々の意欲的な試みを盛り込み、単に学部を同居させるだけではない真の「文理融合」を実現する教育プログラムです。私たちは、「青山スタンダード」に設置されている多彩な科目を通して、すべての学部で学ぶ学生に幅広い知見を持ち、現代社会が抱えるさまざまな問題を発見し、解決に導く能力を身につけてもらいたいと考えているのですが、みなさんは一体どのように「青スタ」を利用されているのか、責任者としてこの機会に率直なご意見を聴いてみたいと思っています。

菊田 私自身は自然科学系の科目を通して生命倫理やバイオテクノロジーといった問題への関心を深めることができたことが良かったと思っています。3年生で青山キャンパスに来てからも、開講されている生命倫理の授業を引き続き受講しています。また、1・2年生で理工学部の学生と接し、文系の私たちとはものの考え方や対象へのアプローチの違いを知ったことも大きな収穫でした。

青木 理工学部生である私も、文系の学生と授業で一つのことに取り組んだり、ディス

相模原キャンパス 開学からの 4年間を振り返って

オープンキャンパスで説明を受けた「青山スタンダード」などの教育体制にとっても魅力を感じました。さらに素晴らしいキャンパスを自分の目で見て、心を決めることができたのです。今でもとてもきれいで素敵なキャンパスだと思っています。

青木 私も、このキャンパスで学べることが大きな魅力でした。特に理工学部の場合は、学部4年間はもちろん、大学院まで同じキャンパスで勉学や研究に取り組めるわけで、受験生や高校生にとって、大きなセールスポイントとなるのではないのでしょうか。

菊田 私は相模原第1期生ですから、最初は先輩が誰もいないキャンパスで「どうなるのかな？」という不安もあったのですが、4月の入学後、正門の前に立った途端、これから始まる素晴らしいキャンパスライフを確信しました。実際にキャンパスのきれいさや広さだけではなく、パソコンやマルチメディア教室のプロジェクターなど、IT設備の充実ぶりに感動させられました。1期生としてそうした最新の施設・設備をいちばん最初に使えたのは、とても気分良かったです(笑)。

一人ひとりの 「青山スタンダード」 活用術を聞いてみました

魚住 次に開学と同時に従来の教養教育を抜本的に改革し、スタートした全学共通教育プログラム「青山スタンダード」について、青山スタンダード教育機構長でもある仙波先生に「青山スタンダード」の趣旨についてお話しいただきたいと思います。

仙波 「青山スタンダード」とは、カリキュラム群としての青山スタンダード科目とそ





相模原キャンパス開学からの4年間を振り返って

SAGAMIHARA
CAMPUS

カッションしたりするのは楽しかったですね。ただ、僕は、文系・理系というより、世の中にはさまざまな個性の学生がいるということが驚きでした（笑）。個人的には経済に関心がありますので、理工学部生でもそうした科目を履修できる選択肢を与えてもらうことはありがたいですね。あと、私が受講したフレッシュャーズ・セミナーでは、プレゼンテーションのトレーニングを行ったのですが、これは上級生になった時や就職活動でも役立つスキルなので、新入生にはぜひたいおすすめします。

神田 私は青木さんとは反対で経済が苦手分野でしたが、スタンダード科目を通して「食わず嫌い」だった分野の面白さを発見できました。科目選択の幅が広がる2年生では、もともと環境問題に関心があったので自然科学系の科目を中心に履修しています。

仙波 1年生の高秀君は、今年初めて出会った青山スタンダードにどのような印象をお持ちですか？

高秀 入学前から、パンフレットなどを通して青山スタンダードのことは知っていましたが、オリエンテーションで詳しく説明を受けて、初めてどのようなものかイメージが

つかめました。でも最初はそれほど期待していたわけではありません。しかし実際に受講してみて、あまり興味がなかった自然科学の授業も思わず引き込まれる内容だったので驚きました。熱伝導をテーマにした総合科目の「科学技術の視点」は、3人の先生によるオムニバス形式の講義でしたが、専門分野の異なる先生方が文系の学生を意識して、授業内容を工夫されていると感じました。この授業のおかげで、テレビニュースなどで科学技術の話題が報じられると自然と興味が向くようになりましたね。



魚住 それぞれの関心に応じて、青山スタンダードを活用していただいており、教員としてはうれしく思います。では、「青山スタン

ダード」に対する要望や注文はありますか。

仙波 どうぞ、どんなことでも遠慮なく言ってください（笑）。

菊田 では、さっそく（笑）。先ほど言いましたように、私は青山キャンパスでも、生命倫理に関するスタンダード科目を受講しています。この科目に関して言えば、青山での授業に比べて、相模原での授業はクラス



の人数が多いように思います。人数が少ない方が先生とのコミュニケーションもあり、中身の濃い授業ができると思います。

仙波 それは私たちの大きな課題です。確かに授業内容によっては、できるだけ少人数クラスにした方がふさわしいものもあるかもしれません。

神田 スタンダード科目は授業内容がバラエティにあふれている反面、担当する先生によって授業の進め方や試験やレポートの評価方法がかなり異なっています。学生はそのあたりをしっかりと把握しておかないと、試験対策などでちょっと苦労することもあります。

仙波 なるほど。各授業を担当される教員の個性を生かしつつ、評価方法などに関しては可能な部分ではスタンダード＝共通化

を進めていくことは、必要ですね。ちなみに授業の中身や進め方についても、本学で



はプロジェクトチームを作って授業公開などを含むFD (Faculty Development = 教員集団の資質開発活動)に取り組んでおり、担当教員のスキルアップを図っています。



高秀 「情報スキル」の授業では、コンピュータによる自動採点が導入されています。それ自体は素晴らしいことだと思うのですが、

今のシステムですと、自分がどこをどのように間違えたかをリアルタイムに把握できません。その点がちょっと不満です。

仙波 そういった具体的な指摘はとても参考になります。私たちが今の青山スタンダードがベストであるとは考えておりません。みなさんからのご意見を参考にしながら、つねに改善と発展を目指して努力しています。

パソコンや図書館など 大学での学びに欠かせない ツールの“使い心地”は?

魚住 では、今度は教育施設・設備についてうかがいましょう。

青木 広くて快適な研究室、充実した実験設備……理工学部の研究環境は最高ですね。また、これは理工



工学部に限りませんが、キャンパスのいたるところに多くのパソコンがあるので、使いたいと思った時に混んでいて使えないということがありません。

高秀 僕も入学して驚いたことの一つがパソコン設備の充実ぶりでした。

仙波 PCやヘッドセットを利用した語学の授業が行われているCALL (Computer Assisted Language Learning) 教室は、授業のない時間は語学の自習やインターネット検索など、自由に利用することができます。英米文学科の神田さんは、利用されることはありますか?

神田 はい、今年になってから英語のスキ

ルアップのために利用しているのですが、もっと早くから利用すれば良かったと思っています。

菊田 相模原キャンパスは、図書館のメディアライブラリーに豊富な語学関係の視聴覚教材が揃っており、私もよく利用していました。そうそう、語学教材だけではなく、クラシック音楽のCDも充実していました。

仙波 相模原キャンパスの図書館全体の設備や蔵書、使い勝手はいかがですか?

高秀 個別のブースは、落ち着いて勉強に打ち込めます。私は講義の調べものや課題のレポート執筆で活用しています。

神田 私はクラブ活動で青山キャンパスに行ったときに、図書館も利用しているのですが、文学関係の洋書に関しては、やはり



青山キャンパスの方が充実しています。それに青山は開架式なので、書架を探し歩く楽しみもあります。図書館で本を探しながら、気がついたら数時間経っていた……なんてこともありました(笑)。

仙波 確かに開架式の図書館にはそういう楽しみもありますね。蔵書の傾向で区別すると、相模原の図書館は「学習型」、青山の図書館は「研究型」と言えるかもしれません。

高秀 探している本はほとんど相模原で見つかりますが、図書検索すると、たまに青山の図書館にあるという結果が出ることもあります。

仙波 そんな場合は、青山から図書の取り寄せもできますので、今度はぜひレファレンスサービスの専門職員に頼んでみてください。

さらに学生が利用しやすい 相模原キャンパスに していくために……

魚住 青山と相模原の違いといえば、事務部門があります。相模原キャンパスでは図

書館があるB棟1階「スチューデントセンター」で、学生生活に関わるすべてのニーズに応えるワンストップ型の事務体制となっています。

神田 履修、教職課程、留学、就職などの用事が1カ所でできるのは、やはり便利です。職員の方々もとても親切です。ただ、昼休み時間に利用したいと思うことがあるので、その時間にも受け付けてくれるととってもありがたいのですが……。

菊田 私は青山キャンパスも好きですが、事務部門が1カ所に集中している便利さは断然、相模原の“勝ち”ですね。

仙波 実は、現在進んでいる青山キャンパス再開発計画の中で、学生が利用しやすい事務部門のあり方が大きなテーマになっており、今後、さらに利用しやすい事務システムを作っていく予定です。

菊田 私はこの3月で卒業しますが、こういうスペースがあれば相模原キャンパスがもっとよくなるという提案がひとつあるのです……。

仙波 ぜひ、聞かせてください。

菊田 世界に自慢できるような立派なキャンパスなので、外国人留学生などと交流できるフリースペースのような“場”があればいいな、と思います。



仙波 驚きました。実は2007年4月から、F棟の2階に菊田さんが言ったような“フリースペース”を設ける予定なのです。でも、あなたの在学中に実現できなくて申し訳ありません。

菊田 いえいえ、相模原キャンパスが充実していくのは私もうれしいです。

魚住 今日はみなさんからこれからの相模原キャンパスの環境整備や教育システムの充実、発展にたいへん参考になる多くのご意見をいただき、ありがとうございました。これからも本学の発展のために、ぜひ積極的にご意見をお寄せいただきたいと思います。

(2007年1月31日 於:相模原キャンパスB棟2階特別会議室)

理工学研究科重里研究室の院生が 国内外の学会で高評価

2006年11月12(日)～17日(金)、サンフランシスコで開催された第53回AVS国際会議において、本学大学院理工学研究科の重里有三研究室(理工学専攻機能物質創成コース)に所属する蘆田徹さん、山口真穂さん(いずれも博士前期課程2年)が講演を行いました。国内の学会で複数回発表し既に高い評価を受けていた両者の研究成果は、真空プロセスの分野で世界最大の規模を誇る今回の国際会議でも多くの研究者の関心を集め、国際舞台でその価値の高さを示しました。

蘆田さんが取り組んだのは、透明でありながら電気を通す性質を持つ「透明導電膜」の熱物性の研究。「透明導電膜」の熱物性を実践的に解析し、理論的なモデルを構築するとともに、それを実証できたのは世界でも初めての例で、その成果はオーバーヒートしにくい液晶ディスプレイの設計などに応用できます。

一方、山口さんは、複合系の窒化物によって合成されるハードコート(固い膜)について研究。チタンやシリコン、アルミニウムなどのありふれた原料を複合窒化物として合成した薄膜の構造を透過型電子顕微鏡で解析し、最適なナノ構造を形成させることによりダイヤモンド並の固さを引き出すことに成功しました。この薄膜は極めて多くの分野への応用が期待されています。

なお、両名の研究成果はアメリカ物理学会(AIP)が発行している専門誌「Journal of Vacuum Science & Technology」に、フルペーパー(論文)として掲載される予定です。

さらに同研究室では、2006年8月29日(火)～9月1日(金)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで行われた「第67回応用物理学会学術講演会」において、秋月秀夫さん(博士前期課程2年)が「第21回応用物理学会講演奨励賞」を受賞。同賞は、応用物理学の発展に貢献する一般講演論文を発表した大学院生に授与される名誉あるもので、秋



左から秋月さん、重里教授、山口さん、蘆田さん

月さんの研究は全国の大学から酸化エレクトロニクス分野に数十件応募があったうちの最も優秀なものとして表彰されました。

研究の内容は、酸化チタンを材料にスパッタリングと呼ばれる特殊な製法を用いた透明導電膜の作製。従来透明導電膜のスタンダードな材料として使われてきたインジウムよりも低価格かつ環境にやさしいチタンを使用するため、高い実用価値があります。

秋月さんはこの受賞を受け、2007年3月本学相模原キャンパスで開催される「第54回(春季)応用物理学関係連合講演会」にて、受賞記念講演を行います。また、秋月さんはひきつづき日本電子材料技術協会で優秀賞も受賞しました。

蘆田 徹さん

これまで、液晶ディスプレイなどに使われる「透明導電膜」の熱物性を測定するには、薄膜の原型であるバルク(塊)の状態で行う方法しかありませんでした。私の研究は、従来は不可能だった薄膜の状態での測定を可能にしたものです。サンフランシスコでの発表においては、研究テーマのオリジナリティを高く評価していただきました。今回の成果が世界中で行われているさらに発展した研究につながってくれることを願っています。

山口 真穂さん

私はセラミック薄膜のなかでも、ハードコート(硬い膜)について研究しました。実際に作った膜の構造を透過型電子顕微鏡で観察し、膜が硬くなる理由を自分の目で検証しながら研究を進展させたことに大きな意義を感じています。昨年11月のAVS国際会議では、その規模の大きさ、一堂に集った研究者たちの国籍、人種の多様性に驚かされました。修了後は企業の研究者として物質科学の研究にさらに励み、日本の技術の高さを世界に証明できるような研究成果を発表したいと思っています。

秋月 秀夫さん

昨年の「応用物理学会学術講演会」は、口頭で研究を発表するはじめての機会でした。緊張感こそありましたが、研究の結果に説得力、厚みができるように考察を重ね、10分間の持ち時間でうまくまとめられるように何度も練習したことが、名誉ある賞をいただくひとつの要因になったと思っています。現在は、今年3月に行われる記念講演に向け、我々の研究のオリジナリティを追究するとともに前回の研究で作製した「透明導電膜」よりさらに高い性能を備えた膜の開発を目指しています。



「電波吸収体」に関する各企業との共同研究・開発が、ETCや無線LANの分野などで実用化——理工学部 橋本研究室



理工学部電気電子工学科
橋本 修 教授

目には見えませんが、現代の生活環境においては至る所で“電波”が飛び交っています。飛び交う電波をそのまま放っておいては、混信や誤作動など機器の不具合が発生します。そこで必要とされるのが、電波を吸収し、電波の乱反射を防ぐ「電波吸収体」。橋本修研究室では、各種電波吸収体における材料定数測定や測定評価についての研究を進めています。

「今、電波吸収体の実用化に向けて取り組んでいる分野は大きく分けて3つ。高速道路のETC用、無線LAN用、近傍（携帯電話やパソコンなど筐体の中が電波でさらされるもの）用です。とくに近年急ピッチで普及が進むETCでは、ゲートと車載機との無線通信に使われる電波がゲートの天上や路面、車両などで乱反射を起こし、後続や隣のレーンの車両に影響を及ぼして二重で課金されたりなどの障害が報告されています。それらの電波環境問題を改善するのが電波吸収体ですが、ただ電波を吸収すれば良いわけではありません。耐久性はもちろんのこと、ゲートの

天上に設置するには軽量化、隣のレーンとの間に設置するには視認性を考慮するなど、クリアすべき課題がいくつもあります。研究室ではNXCO（旧道路公団）をはじめ、東芝セラミック、ブリヂストン、横浜ゴムなど、数々の企業と電波吸収体の材料や形状などについての共同研究・開発を進行中。『透明型電波吸収体』や『格子型電波吸収体』など既に実用化に向けて試験施工が行われています。今後、順次ETCゲートへ採用されていく予定です。一方、無線LANや近傍用の分野の研究も順調に進んでいます。無線LAN関係では、オフィスビルの各部屋の快適な電波環境を実現するために、建材そのものが電波吸収体となる製品を開発。石膏ボード型、木材型、窓ガラス型とバリエーションもさまざま、実験では99%もの電波吸収率を実現しました。また、携帯電話などの小型精密機械については、さらなる小型化・軽量化を追求し、筐体そのものが電波吸収体となる製品が実用化されています」

企業との共同・受託研究は25件以上、そして取り組むべきテーマは80件以上という橋本研究室。目に見えない電波が、人の暮らしのなかでより快適に利用されるよう、その研究はまだまだ続けられます。

理工学研究科橋本研究室の研究グループが、アジア最大の国際会議で「APMC2006 Prize」受賞

2006年12月12日（火）～15日（金）、横浜みなとみらい・パシフィコ横浜で開催されたAPMC（Asia Pacific Microwave Conference）2006において、本学大学院理工学研究科橋本修研究室（理工学専攻電気電子工学コース）の研究グループがAPMC2006 Prizeを受賞しました。APMCはヨーロッパのEUMC、アメリカのIMSとともに、マイクロ波研究における世界3大会議の一つ。APMC2006 Prizeは、今回の会議において発表された約500件の論文のうち、マイクロ波研究の進展に貢献すると認められた優れた論文発表に対して贈られたもので、橋本研究室を含む6件が選ばれています。

受賞した論文は、高速道路の自動料金収受システム（ETC）で電波干渉による二重課金など機器の誤動作を防ぐための新しいタイプの電波吸収体を提案するものです。この「格子型電波吸収体」は、ガラス繊維を含む強化プラスチックにカーボンパウダーを混ぜた素材で作られています。安全のための視認性に加え、屋外設置用に求められる通気性や耐環境性などのメリットを有しており、すでに近畿、中部地区のETCレーンで実用化に向けた実証試験が行われています。

受賞した研究グループのメンバーは、橋本修教授のほか、滝本真さん（博士前期課程1年）、松本好太さん（21世紀COE研究支援者）、そして共同研究者である三井造船（株）の酒井正和氏の4名。そのうち滝本さんと松本さんに受賞の喜びの声をうかがいました。

滝本 真さん（博士前期課程1年）

「英語でのプレゼンテーションは、今回が初めての体験でしたが、『今までにないモノを作った!』という自信がありましたので、質疑応答を含めてなんとかやり遂げることができました。研究室に入って一つ目の研究テーマとして取り組んだ『格子型電波吸収体』が形になったばかりでなく、

その成果が広く専門家から認められたことが何よりうれしい……しかし、まだ改善すべき点があると思っていますので、残り1年半の大学院生活の中で、より高性能な改良版を形にすることを次の目標としていきたいと思っています」

松本 好太さん（21世紀COE研究支援者）

「世界各国の数多くの研究グループによる論文発表の中から、まさか自分たちが選ばれるとは予想していませんでしたので、喜びもひとしおです。今回の受賞は研究グループ4人のチームワークによるものだと思います。滝本君と私をつねにバックアップしてくれた橋本先生と三井造船の酒井さんに、あらためて感謝したいですね。今後も橋本研究室での経験を生かし、研究を通じて社会に貢献していきたいです」



写真左から滝本さん、橋本教授、松本さん

2006年度の進路・就職状況について

2007年度も青学生の就職は好調

ここ数年、日本経済の景気回復、また団塊の世代の大量退職による「2007年問題」などの要因により、企業の採用意欲が高まりを見せ、大学生の就職状況は大幅に好転しています。

本学でも卒業生の就職決定率は、昨年度よりほぼバブル期の水準に戻っており（次頁右下グラフ参照）、多くの学生が満足のいく結果を得られたようです。

2006年度に本学に寄せられた求人件数を見ると、人文・社会科学系学部に対して2007年1月の段階で前年度比約10パーセント増の5,300件以上。卒業予定者約3,600名に対し、ほぼ1.5倍の求人数でした。また、理工学部の求人件数は、前年比約13%増の2,600件以上で、進路決定率は学部生、大学院生ともに100%近い数字となっています。

一方、大企業を中心に採用数が増大している影響のためか、公務員志望者は減少傾向にあります。なお、本学では2006年度より専門学校の渋谷校に本学の推奨公務員講座を設置。他大学の受講生の中で切磋琢磨し、合格への意欲を高められるようにしましたが、2007年度も同様の体制で、さらに科目やコマ数を吟味し合格の実績を出せるよう計画しています。また、教員志望者に対しても、より充実した支援を計画中です。

ネットによる就職活動の功罪とは？

こうした就職環境の好転は歓迎すべきことではありますが、まったく問題点がないわけではありません。たとえば近年は就職活動もインターネットが主流となり、特に活動初期は、ウェブサイトの採用情報を利用するケースがほとんどです。しかし、実はここに落とし穴があります。

今年度も大手企業では採用選考を4月以降とするところが多く、夏



上倉 功
進路・就職センター
事務長

採用、秋採用もめずらしくなくなりました。そのため、第一期の内定ピークを過ぎた5～6月になっても採用情報が途切れず、秋まで大手企業の採用情報があるという傾向が見られました。その結果、学生が夏休みを過ぎても“ネット離れ”ができなくなるのです。実際、大学の求人票を利用したり、本センターに個別相談に訪れたりする学生が減少しており、少なからぬ学生がネット情報に振り回されているのではないかと懸念を抱いています。そして、企業の“ブランド”志向や特定業界へのこだわりから抜け出せない学生にとっては、内定を獲得できないまま、中堅企業に目を向ける時期が遅くなり、最後まで納得できずに就職活動にピリオドを打ってしまうという悪影響も感じられました。

あまり多くの人と接することなく就職活動を進めようと、自分の思いこみから軌道修正がしにくくなるものです。

企業や卒業生と出会う機会を積極的に提供

本センターでは、今年度も本格的な就職シーズンが始まる前に、“ブランド”重視ではなく「自分がやりたい仕事」を基準に、幅広い視点で企業研究ができるよう、アドバイスをを行っています。秋の就職ガイダンスが終わってからは、企業の人事担当者や卒業生を青山キャンパスに招いて開催する「業界企業研究セミナー」をはじめ青学OB・OGのネットワークによる「業界研究パネル」、「模擬面接会」「マスコミQ&A」などを開催。また、今年の2月には、学生食堂を会場に「学内で出来るOB・OG訪問」と銘打ち、在学生が自由に交流し、社会に出て活躍している先輩の話を聞ける場を提供しました。

就職は学生本人の問題ではありますが、同時に社会という他者と共存する“場”に出ていくことでもあります。ネットを中心とした就職活動を行っている、とすればそうした就職活動が持つ社会的、対人的な側面が見えにくくなるという点に十分注意していただきたいと思っています。「自分の就職活動は、このまでいいのか？」少しでもそんな迷いが生じたら、ぜひ、進路・就職センターまでおいでください。

過去10年就職者数ランキング(1996～2005年度)

人文・社会科学系男子		
順位	企業名	採用者数
1	(株)みずほ銀行	59
2	(株)大塚商会	57
3	大和ハウス工業(株)	57
4	積水ハウス(株)	54
5	(株)ジェイティビー	48
6	(株)イトーヨーカ堂	42
7	大和証券(株)	40
8	富士通(株)	33
9	野村證券(株)	32
10	日興コーディアル証券(株)	32
11	日本アイ・ビー・エム(株)	31
12	ソフトバンクBB(株)	31
13	大日本印刷(株)	30
14	(株)三井住友銀行	29
15	(株)ダイエー	29
16	新光証券(株)	28
17	日本電気(株)	28
18	(株)三菱東京UFJ銀行	27
19	(株)光通信	27
20	(株)セブン・イレブン・ジャパン	27

人文・社会科学系女子		
順位	企業名	採用者数
1	(株)三菱東京UFJ銀行	152
2	(株)みずほ銀行	133
3	全日本空輸(株)	130
4	東京海上日動火災保険(株)	126
5	(株)損害保険ジャパン	97
6	(株)日本航空インターナショナル	92
7	日本生命保険(株)	76
8	大和証券(株)	74
9	三菱UFJ信託銀行(株)	73
10	(株)ノヴァ	72
11	(株)三井住友銀行	69
12	第一生命保険(相)	63
13	日本興亜損害保険(株)	57
14	(株)エイチアイ・エス	56
15	三井住友海上火災保険(株)	55
16	(株)ジェイティビー	54
17	住友信託銀行(株)	45
18	(株)埼玉りそな銀行	42
19	野村証券(株)	37
20	日興コーディアル証券(株)	36

理工学系		
順位	企業名	内定者
1	キヤノン(株)	116
2	日本アイ・ビー・エム(株)	69
3	日本電気(株)	65
4	本田技研工業(株)	65
5	(株)日立製作所	62
6	東日本電信電話(株)	61
7	ソニー(株)	51
8	日産自動車(株)	38
9	富士ゼロックス(株)	38
10	富士通(株)	38
11	(株)リコー	34
12	(株)NTTデータ	32
13	キヤノンマーケティングジャパン(株)	29
14	日本ヒューレット・パカード(株)	29
15	(株)アルファシステムズ	26
16	(株)日本総合研究所	26
17	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)	26
18	松下電器産業(株)	26
19	日本ユニシス(株)	23
20	トヨタ自動車(株)	22

(理工学部・理工学研究科合計)

Message

就職活動に取り組む青学生のみなさんへ

就職活動は、学生が社会人へと成長するプロセスです



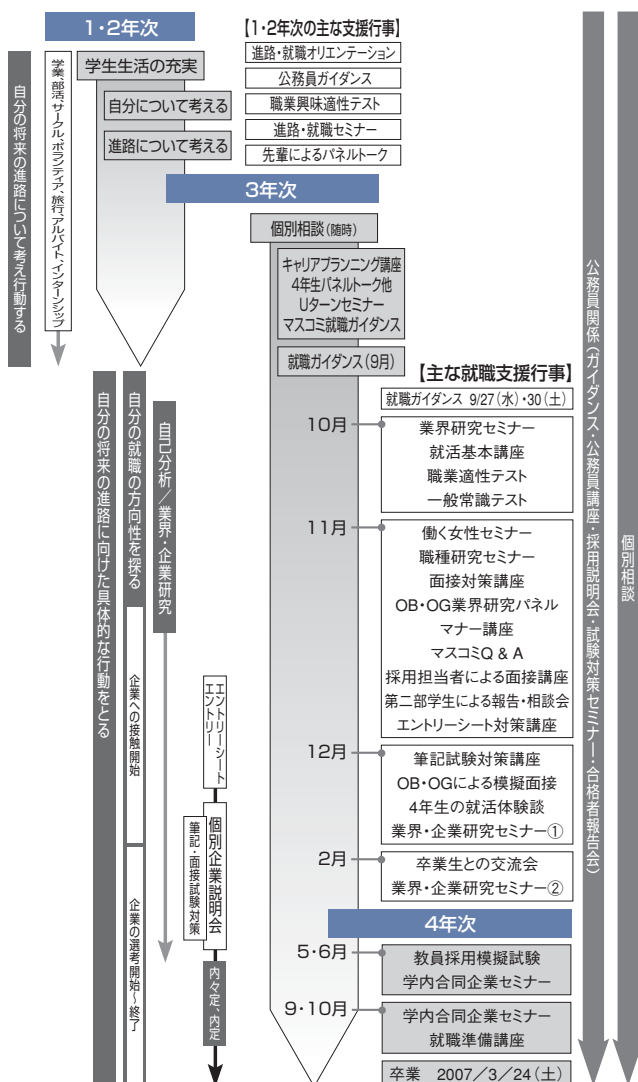
仁科 貞文
就職部長
文学部教授



今から15年ほど前の「就職バブル期」には、就職活動を行う学生の間で「花長風月」という言葉が使われていました。「就職できて当たり前」という時代でしたから、どうせなら「花形で、長期休暇があり、社風は居心地よく、月給が高い」企業にいたいというわけです。

しかし、今となってはその当時採用された人たちに比べて、その後10年に及んだ厳しい「就職氷河期」に就職した人たちの方が、仕事ぶりへの評価も高く、転職も少ないと言われています。おそらく苦労した就職活動の経験が、学生をひとまわり大きく成長させたからでしょう。経済産業省が発表した「社会人基礎力（企業が大学生に求める能力）」によると、企業は「主体性、課題発見力、状況把握力」などを求めており、これらの能力は、大学生活の中での経験よりも、まさに社会に直面する就職活動に主体的に取り組むこと

進路・就職支援のプロセス(2006年度)



で鍛えられる能力だと考えられます。就職活動とは、単に職探しではなく、自分という人間を知り、多くの人々に構成される社会を知る機会でもあります。前向きに取り組むと、否応なく自ら計画し・実行し・決断することが求められ、その過程で社会人としてのマナーを身につけ、採用試験の度に落ち込み・立ち直りを繰り返して精神的に鍛えられていきます。

今、就職環境は「氷河期」から「温暖化期」とも言える段階に入りつつあります。しかし、油断は禁物！ 学生がかつての「バブル期」のような安易な就職態度に戻ることなく、就職活動を自らの成長のための好機だと考えて、就職活動を通して「社会人基礎力」を身につけるように努力していただきたいと願っています。

進路の報告



卒業の決まった4年生のみなさんへ

進路報告書の提出先

青山キャンパス(文・社会科学系学部)

.....進路・就職センターへ「進路決定届」を提出

相模原キャンパス(理工学部、理工学研究科)

..... 学生支援ユニット進路グループへ「進路先届」を提出

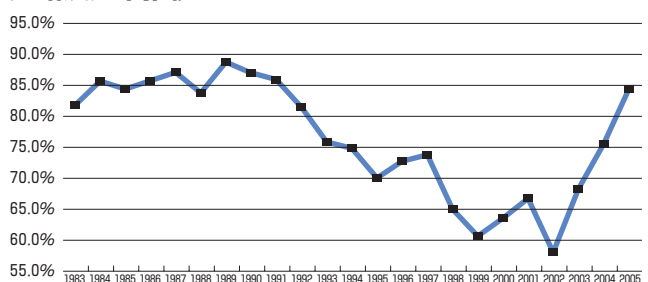
※文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙をご提出いただきます。

キャリア形成支援課外講座

相模原キャンパスでは、2006年度後期（10月～12月）に、青山スタンダードの課外講座（単位なし）が、1・2年生を対象に下記内容で実施され、約80名が参加しました。

テーマ	内容
自己発見レポートの受検	●自分の歴史を振り返る ●エントリースHEETにチャレンジ!
キャリアデザインって何だろう?	●キャリアデザインについての考え方を知る ●キャリアデザインの3つのステップ
職種・資格について考える	●仕事内容について考え、興味のある職種について考える ●資格取得に対する考え方を知る
自分について考えよう (+自己発見レポートの解説)	●自己分析をし、価値観や行動パターンを考える ●私はどんな人? (他者から見た自分・過去の行動から見た自分)
あなたの強みは? (+自己発見レポートの解説)	●自分の強みに気づき、その強みをどんな場で発揮できるかを知る
社会が求める人材って?	●企業が求める人材 ●自分が伸ばすべき力を知る
コミュニケーション	●コミュニケーション力診断 ●コミュニケーション力の伸ばし方
社会と学問の関係は?	●社会と学問の関連の深さ(学問に取り組むことが、社会で活きる力の獲得につながることを知る)
私のキャリアデザインマップ	●「自分」を総合的に見つめて、これからの目標を立てる ●もう一度、エントリースHEETにチャレンジ!
目標に向かってチャレンジしよう!	●目標達成に向けて

進路決定率推移(1983~2005)



本学女子バレーボール部が 史上初「五冠」の快挙!

2006年度、本学女子バレーボール部は、春季関東大学女子バレーボールリーグ戦、第25回東日本大学バレーボール選手権大会(東日本インカレ)、第1回東西インカレバレーボール女子選抜優勝大会(シモンズ杯・2006年度より開催)、秋季関東大学女子バレーボールリーグ戦を制し、2006年12月4日(月)～10日(日)に開催された全日本バレーボール選手権大会(全日本インカレ)でも優勝。大学女子バレーボール史上初の「五冠」を達成しました。他の強豪大学チームと比較して、部員数、身長共にハンディがありながら、スピードとチームワークで勝ち続けてきた青学バレーの快挙! 主将を務めた秋山美幸さん(文学部4年)に今シーズンをふり返ってのお話をうかがいました。

女子バレーボール部主将 秋山 美幸 さん

チーム21名全員が「五冠」達成をはっきりと意識しながらシーズンを迎えた2006年度。選手は皆、自分から勝つためにやるべきことをやるメンバー



(写真提供:浅井和巳氏[校友])

ばかりなので、キャプテンとしての苦労はそれほどありませんでした。むしろキャプテンとしても、セッターとしても、チームの仲間に助けられてきた1年間だったよ

うに思います。そして、私たち選手がのびのびとバレーボールに取り組める環境を作ってくれた生瀬監督とコーチには、感謝の気持ちでいっぱいです。今ふり返ってみると「私たちに信頼してくれる監督とコーチの気持ちを裏切るわけにはいかない」という選手一人ひとりの思いが、五冠を達成できた大きな要因の一つだったと思います。

とはいえ、決して順調なシーズンだったわけではありません。まず、シーズン最初の春季リーグ戦でさっそく大きなピンチを迎えました。でも「ここで負けるわけにはいかない!」という強い気持ちで戦い抜き、なんとか優勝……そして年末の全日本インカレでは、見えないプレッシャーが「五冠」を目前にした私たちを襲いました。いつも通りの動きができず、試合の中でなかなか自分たちのリズムを作ることができなかったのです。苦しみながらの優勝は、喜び以上に「ホッ」としたというのが正直な気持ち。実は今でも五冠達成の実感がわからないんです(笑)。

私たち4年生は卒業しますが、今シーズンを通してずっと同じ気持ちで戦ってきた後輩たちが新チームで、きっと来シーズンも頑張ってくれるでしょう。後輩たちには青学女子バレー部しか感じることでない「五冠」のプレッシャーを楽しんで、またそれを自信として戦ってほしいと言いたいですね。そして、青学生のみなさん、どうか来年度も青学女子バレー部に熱い声援をお願い致します。

※秋山さんは4月からVリーグ「NECレッド・ロケッツ」で活躍が期待されます。



(写真提供:浅井和巳氏[校友])

レスリング部長谷川 恒平君、 全日本大学選手権3連覇&2006年度「四冠」達成!

2006年12月21日(木)・22日(金)の両日、東京・駒沢体育館で開催された内閣総理大臣杯全日本大学選手権において、本学大学レスリング部の長谷川恒平君(文学部4年)が55kg級で優勝し、大会3連覇を達成しました。2006年シーズン、長谷川君は文部科学大臣杯全日本大学グレコローマン選手権、兵庫県で開催された国民体育大会(成年グレコローマン)、全日本学生選手権(グレコローマンスタイル)と、それぞれ55kg級での優勝を重ねており、これで四冠達成となりました。2007年1月26日(金)～28日(日)駒沢体育館で行われた2006年度天皇杯全日本選手権にも出場し、五冠を狙いましたが、惜しくも敗退……。しかし、卒業後は北京五輪出場を目指し、競技生活を続行!「世界の長谷川」に、ぜひ、青学生のみなさんの熱い声援をお願いします。

レスリング部主将 長谷川 恒平 君

2006年度は、まず6月にモンゴルで開催された世界学生選手権で3位となり、残る国内大会には「ぜったいに負けるわけにはいかない!」という強い意欲で臨みました。四冠のうち、全日本大学グレコローマン選手権は私にとって初めての優勝だったので、特に感慨が深いですね。

高校以来、私はグレコローマンスタイルの選手として戦ってきましたが、実はフリースタイルも得意です。両スタイルの利点を生かした戦い方が私の強みでもあり、後輩たちにも両方の練習をしておくことを勧めました。青学のレスリング部は、部員数こそ少ないのですが、先輩・後輩や階級の分け隔てなくみんなで力を合わせて「勝つ」ための練習に取り組んでおり、つねに「日本一」を意識して戦っています。卒業にあたって、私だけでなく

レスリング部自体が、今シーズン良い成績をあげることができたことをとてもうれしく思います。

私は文学部教育学科に在籍しているため、今シーズンは教育実習

と卒業論文があり、ハードな試合日程となりました。でも、あえて文武両道を目指して入学した青学ですので、どちらも真剣勝負で臨みました。自分の母校で行った教育実習では、受け持った生徒たちから「先生、がんばって!」と温かい声援をもらい、大きな励みになりました。また、同じ体育館で練習し、ふだんから仲が良い女子バレーボール部の活躍ぶりには、いつも勇気づけられてきました。彼女たちの「五冠」達成には、心からの拍手を贈りたいと思います。

2007年度、レスリング部の後輩たちは、大学日本一を目指し、素晴らしい戦いを繰り広げてくれることでしょう。私自身も彼らに負けないよう北京五輪、さらにその先のロンドン五輪を視野に入れて、世界レベルの戦いに挑戦していくつもりです。



(写真提供:浅井和巳氏[校友])

陸上部米澤 豪君が箱根駅伝関東学連選抜として参加。強豪が揃うアンカーで区間5位のタイムをマーク!

毎年1月2日と3日に開催される恒例の東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)。第83回を迎えた2007年も昨年度大会でシード権を獲得した10校、予選会を勝ち抜いた9校、そして関東学連選抜を加えた合計20校が、新春の箱根路を駆け抜けました。残念ながら本戦出場を果たせなかった大学から1名ずつ選抜される関東学連選抜に、本学から米澤豪君(法学部2年)が選出。しかもアンカーという重責を担いながら、区間5位の好成績でゴールしました。憧れだった箱根駅伝を初めて走った感想と、この経験を生かしたうえでの今後の抱負をお聞きました。

陸上部 米澤 豪 君

今年の関東学連選抜は16人のメンバーで構成されました。そのうち箱根駅伝を実際に走れるのは10人。とにかくその10人に入りたいという思いが強かったですね。ですからチームを率いていた拓殖大の監督から「アンカーを任せる」と言われたときは本当にビックリ。ただ、アンカーであることよりも、とにかく「箱根駅伝を走れる」うれしさが先にありました。昨年は、同じく選抜チームに選ばれた先輩の付き添いとして、箱根駅伝に参加しましたが、その付き添いだけでも結構緊張したものです。それが今度は実際に走るわけですから、どんな気持ちで走ることになるのか、自分でも想像さえできませんでした。

そして迎えた当日。高校から本格的に陸上を始

めて、いろいろな大会にも出場しましたが、そのどの大会とも違う雰囲気を感じました。正直、雰囲気が違い過ぎて緊張する余裕さえなかったほどです。いよいよ出番が近づき、気持ちが高ぶってきたところで繰り上げスタートの合図。選抜チームのアンカーとしてタスキを受け取ることはできなかったのです。チームとしては残念でしたが、結果的にはこれで緊張が解け、「楽しんで走ろう」と気楽な気分になりました。耳鳴りを覚えるほどの沿道の観衆の大声援にも後押しされ、全長23.1kmの距離を本当に気持ちよく走り切ることができました。区間5位のタイムは、自分でも信じられない好記録ですが、リラックスして走ることができた結果だと思っています。

今回、箱根駅伝を走って、大きな自信になったことはもちろんですが、この感動をチームメイトにも味わってほしいとの思いが強くなりました。実は高校時代も都道府県対抗駅伝の福井県代表として高校生区間に個人では

出場しましたが、所属チームで大きな大会に参加した経験はありません。ぜひ青山学院大学のチームメイト10人でタスキを箱根路でつなぎたい。そのために今回の経験をフルに生かし、陸上部を引っ張っていくつもりです。悲願の箱根駅伝出場を目指す青山学院大学陸上部にご声援をお願いします。



(写真提供:浅井和巳氏[校友])

本学サッカー部が5年ぶりに 関東大学サッカー1部リーグ復帰

2006年11月23日(祝)、千葉県市原緑地公園臨海競技場で開催された第88回関東大学サッカー後期リーグ戦最終節において、本学サッカー部は、国際武道大学との試合で1対1で引き分け。その結果、リーグ戦得失点で国際武道大学を上回り、2部リーグ2位が確定し、5年ぶりとなる1部リーグへの昇格を果たしました。

また、リーグ戦閉会式において、中村祐人選手(文学部2年・FW)が17得点で2部リーグ得点王となり、中村選手、キャプテンの扇塚耕一選手(経営学部4年・MF)、田坂 祐介選手(経営学部3年・MF)が2部リーグベストイレブンに選出されています。

サッカー部主将 扇塚 耕一 君

青学サッカー部は、私が入学する前年まで関東大学サッカー1部リーグで戦っていました。ですから「1部復帰」は、私の入学以来の大きな目標でした。2006年シーズン開幕前にキャプテンとなり、私は過去3年間の青学サッカーの戦いぶりをふり返ってみました。すると、やはり「走り負け」場面が多かった……これまで部としてこの弱点の修正にあまり真剣に取り組んでこなかったからです。そこで2006年度は「直すべきところは直す!」という方針で、監督・コーチの指導の下、徹底的に走り込みを行うなどフィジカル面での強化を図りました。といっても私はそれほどリーダーシップを発揮するタイプではありません。4年生部員が前向きに練習に取り組んでくれ、下級生もよくついてきてくれました。そして試合を重ねるたびに練習の成果は着実に結果として表れ、チームにもまとまりが生まれてきたのです。

1部リーグへの昇格が決まったときは、もちろん部員全員で盛りあがりまし

た。試合直後、ゲームに出場できなかった選手も一緒になってベンチでうれし涙を流していました。私はそんな仲間たちの姿を見て「このまとまりがあったからこそ、1部に戻ることができたんだ」と満足した気持ちになり、同時になんとかキャプテンとしての仕事を果たすことができたという安堵感を覚えたものです。

3月で卒業してしまう私としては、来シーズンから1部リーグで戦う後輩がうらやましくもありますが、ぜひ頑張ってもらいたい。でも、「結果」だけを追わないでほしいという気持ちもあります。確かに競技では「結果」が求められることも事実ですが、「チームの仲間とサッカーをやる喜び」の価値について、後輩たちには考えてほしいと思っています。私自身、青学で、このメンバーでサッカーができたことが、自分にとってかけがえのない経験となったと感じているからです。



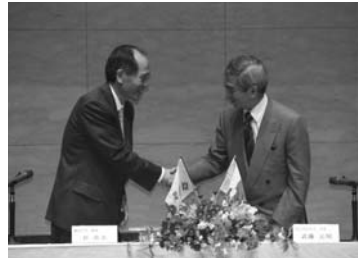
(写真提供:浅井和巳氏[校友])

アジアとのさらなる国際交流の発展をめざして 本学と韓国・慶南大学が学術協定調印

2006年12月20日(水)、青山キャンパス・ガウチャー記念礼拝堂において、本学と慶南大学(韓国)との学術協定締結の調印式が行われました。慶南大学は、韓国南部釜山市に近い馬山市にキャンパスを置き、教養、理学、教育学、経済・商学、法学・政治学、工学の6学部と、大学院6研究科を擁し、学生数約15,000人、韓国有数の規模を誇る私立の総合大学です。調印式は、本学の武藤元昭学長、慶南大学朴在圭総長により行われ、本学にとって韓国における7校目の協定校が誕生しました。今回結ばれた協定は、主に両大学の学生の交換留学を目的としていますが、将来的には教員間の交流や共同研究などを通じて、幅広く学術研究を推進することを目指しています。

この学術協定締結のきっかけとなったのは、2005年秋に調印式と同じくガウチャー記念礼拝堂で開催された日韓露3国の音楽家によるチャリティーコンサートでした。このコンサート開催のために中心的な役割を果たされたのは、当時本学客員教授を務めていたピアニストの李京美慶南大学教授。李さんは、1923年の関東大震災の際に本学院内に避難された114人の朝鮮人の方々を、当時の教員・学生が体を張って迫害の危険から守り抜いたエピソードを知り、韓国に帰国後、

慶南大学執行部に報告。同大学では日韓両国民友好の模範的事例として高く評価しました。そして2006年5月にはキリスト教信仰に基く教育の発展への多大な貢献と、日韓学術交流を通して日韓両国の教育的な発展に努力を重ねてきた功績により、深町正信院長に名誉博士号を授与し、両大学間の交流協定の検討がスタートしたのです。なお、調印式に先立ち、本学に来校された朴総長は李京美教授のほか、李鐘鵬工科大学学長、元裕東国際交流センター所長、韓昌祐大学財団理事とともに深町院長を訪問し、慶南大学で作陶いただいた白磁の壺が贈呈されました。



青山学院大学の教育クオリティ向上を図るFD活動



仙波 憲一

学務・学生担当副学長
FDプロジェクトチームリーダー

FDとは、「Faculty Development」の略称で、「教員集団の資質開発」を意味しています。要するに組織的・計画的に教員の資質開発に取り組むことにより、大学全体の教育水準の質的向上を図る諸活動と考えていただくと良いと思います。

2005年度より、本学では教職員16名から構成されたFDプロジェクトチームによるFD活動を本格化させました。メンバーの一人には高等教育を研究テーマとされ、FD活動にも造詣の深い杉谷祐美子文学部専任講師がいます。また、発足当初のメンバーは教員のみでしたが、事務セクションとの

連携・協力が必要不可欠との観点から各部局の中堅職員の方々にも参加していただき、FDと同時にSD(Staff Development＝職員集団の能力開発)も図っています。

本プロジェクトは、まず「FDとは何か」という理念の検討からスタートし、2005年度より、以下のような活動を進めてきました。

●授業公開

本学のFD活動の大きな柱となるものです。授業の担当教員は自分の授業を見直す良い機会となり、また参観する教職員は他の教員の授業の進め方やスキルを見聞することにより、今後の授業や教育のあり方に関するヒントとなります。また授業担当者と参観者の意見交換により、授業の質的向上をめぐる議論やコミュニケーションの活性化も期待されています。初年度より28科目の公開参加が得られましたが、2006年度には青山、相模原両キャンパス併せて44科目と参加授業が大幅に増加し、期間も2週間に延長して実施しました。

●大学新任教職員オリエンテーション

これまで学院として実施されていた新任教職員オリエンテーションを、大学独自に開催。

本学の建学の精神、教育方針、特色について、学長をはじめとする大学執行部と宗教部長、事務局長がレクチャー。昼食をとりながら、リラックスしたモード

で行われました。

●FD公開シンポジウム

本学がより広範な視点で効果的なFD活動を展開していくために、他大学でFD活動を推進されている方々を講演者に迎えたシンポジウムを開催しています。第1回シンポジウムで講演された慶應義塾大学の井上理教授は、「大学の4WD」、すなわち教員、職員、学生、そして経営(法人)の4輪が同じ方向を目指してきちんと駆動することの重要性を指摘され、このことは本プロジェクトの大きな活動指針となりました。

●FD合宿研修会

夏休み期間に1泊2日の日程で実施され、FDプロジェクトチームメンバーが、それぞれの立場で感じている問題点や提案などをオープンに意見交換。本学のFDをより良い方向で進めるためのディスカッションを行っています。

●学生モニターからの意見聴取・意見交換懇談会

「学生は大学のステークホルダー」との観点から、意欲的に大学生活を送っている学生に対して「授業環境」「事務窓口」に関するアンケート調査を実施し、FD・SD活動の参考としています。また、学生モニターとプロジェクトチームの教職員が、直接意見交換を行う場も設定しています。

本プロジェクトでは、今後、授業で使われるさまざまな情報メディアのスキルアップを図る研修活動を計画しています。また、より良い授業のために努力されている個々の教員の取り組みを紹介する場として「模範授業」の選定や「授業表彰制度」の設置なども検討しています。

FD活動は、決して一過性の活動ではありません。実現できることを着実に進めていくことによって、長いスパンで大学全体の成長・飛躍を目指すものです。今後、本学の教職員が取り組むさまざまな活動を通して、教育活動が活性化し、教育の質的向上が図られ、その結果、学生の学びの充実度、満足度を高めていきたいと考えていますが、そのためには多くの教員、職員、そして学生みなさんのFD活動への積極的な参加が必要です。本学の「教育力」をさらに素晴らしいものにするために、みなさんのご協力をお願いいたします。

国際政治経済学部国際コミュニケーション学科創設記念 日中韓シンポジウム「近くて遠い関係を越えて」開催

国際政治経済学部は1月13日(土)、国際コミュニケーション学科の創設を記念して、毎日新聞社との共催で「近くて遠い関係を越えて——日中韓のコミュニケーションを可能にするために」と題するシンポジウムを開催しました。パネリストにはこの分野を代表する8人が参加しました。以下に討議の概要を説明します。

日中韓の相互理解が本当に悪くなっているのかどうかについて、小倉紀蔵京都大学助教授は、日本のコミュニケーションは一般に言われているように悪くなく、この数年間に互いが学び、成熟の度が増したと述べました。パク・チョルヒソウル大学助教授は、日韓が互いを理解し合っていることを肯定的に捉えながらも、韓国は日本の歴史を見直そうとする「修正主義」的な姿勢に戸惑いを感じているとも指摘しました。

日中間のコミュニケーションについて、王敏法政大学教授は、日中ではそれぞれの社会が、その発展の仕方や段階において違っており、コミュニケーションが高まれば摩擦も起こると言い、井出静本学助教授は日中関係が、この1、2年、最悪の状況になったことが、かえって、互いを見直す機会にもなったと評価しました。

コミュニケーションを社会の発展や変化とリンクして考える小倉(紀)氏やパク氏の議論に対して、円仁の研究者として知られる阿南ヴァージニア史代テンブル大学(日本校)講師とインターネット放送「東京視点」代表の可越氏は、日中韓のコミュニケーションを個人レベルの考え方や行動に結びつけて説明しました。阿南氏は、コミュニケーションや国際交流の目的は自分と異なるものに接することで、自分の心を豊かにすること

だと言い、人と人との間のコミュニケーションが大事だと指摘し、可氏も、まず相手を知ることが重要だとしたうえで、コミュニケーションを深めるためには、若者や市民の力が大切だと主張しました。



その他、文化と政治経済の関係、日中韓のコミュニケーションについての若い世代への期待と心配、東アジアの共通の価値観の形成、多文化共生時代に新しいモデルの役割を担い続ける日本の辛さなどが議論され、質疑応答が行われた後、司会の小倉和夫本学特別招聘教授がこのシンポジウムを総括して、今後、日中韓のコミュニケーション問題を解決していくにはアメリカなど第三者のケースとの比較から学ぶこと、東アジアにコミュニケーションを拒否することもコミュニケーションだと間違えて理解している国があることに注意すること、さらに、アジアの若い世代に将来のビジョンを共有してほしいことなどが述べられました。

最後に、中国古箏奏者の姜小青さんと中国木琴奏者の馬平さんの奏でる美しい調べが会場全体を包みこみ、参加者全員がしばし我を忘れてアジアの音楽を満喫しました。なお、討論の詳細は1月27日(土)の毎日新聞に掲載されています。

(国際政治経済学部長 土山 實男 記)

アドバイザー・グループに入ろう!

本学特有の課外活動で、アドバイザー・グループ(通称「アド・グル」と呼ばれています)の制度があります。このシステムは、教員がアドバイザーとして学生と人格的に交わることを中心に、教員と学生・学生相互が人生あるいは学問の先輩・後輩として、各種懇談会・読書会・見学旅行・ピクニック・ボランティア活動・各種スポーツ合宿などの諸活動を通して、物の見方・考え方、そして生き方を共に深く探求することを目的としています。

教室を離れ、アド・グルの教員を中心に集まった仲間と共に食べ、共に学び、人生を語ることはとても有意義なことです。在学中ばかりでなく、きっと卒業後にも交わりが深まり、一生を通して心を高め合うことのできる価値ある出会いの場ともなります。

新入学生はもちろんのことが在学生も、有意義な“つながり”として、積

極的に参加しましょう。アド・グルの参加は、一年毎の登録制度になっていますので、年度初頭に配布される「アドバイザー登録のしおり」を参照してください。

(学生部長 本郷 茂 記)

アドバイザー登録について

●アドバイザーの登録

- ・受付期間 2007年4月11日(水)～20日(金)
- ・受付場所 相模原キャンパス 学生生活グループ(B棟1階チュードセンター)
青山キャンパス 学生部学生課(1号館1階)

●その他

- ・アド・グルは、1年毎の登録制度になっています。
- ・アドバイザーによっては、若干の条件や制限を設けている場合があります。
- ・アドバイザーの選択は自由です。

課外教育プログラム

国際協力ボランティア入門「地雷ではなく花をください」から10年

柳瀬 房子氏講演会

2006年12月13日(水)、学生部主催「2006年度課外教育プログラム」の一環として、ボランティアフォーラム『国際協力ボランティア入門「地雷ではなく花をください」から10年』と題し、特定非営利活動法人「難民を助ける会」理事長・柳瀬房子さんの講演会が1224教室で開催されました。

柳瀬さんの講演は、3年前に同プログラムで一度講演をして頂きましたが、その後の海外の動向や状況の変化などがあり、今回は現地からのレポートを交え、1時間半にわたる興味ある



内容で話が進みました。

当日の参加者は約25名でしたが、柳瀬さんが執筆された「地雷ではなく花をください」(自由国民社 絵:葉 祥明)を読んだ学生も参加し、世界で行われている地雷除去作業や実際のボランティア活動について熱心に聞き入り、講演終了後も多くの人が残り、柳瀬さんを囲んでのやり取りが行われました。

学生部では、2007年度にも新たな企画を準備していますので、多くの学生が参加してくれることを期待しています。

「eLPCO教職員向け公開講座 —第1回eラーニング専門家育成短期集中講座」開催報告

2006年12月7日(木)～21日(木)までの期間、「eLPCO教職員向け公開講座—第1回eラーニング専門家育成短期集中講座」が開催されました。今回の公開講座は総合研究所eラーニング人材育成研究センター(eLPCO)としてはじめての試みでした。

7日(木)と14日(木)に集合研修を実施したほか、eLPCOが運営・管理を行う多機能eラーニングシステムであるサイバーキャンパスシステム(CCS)を活用して自己学習に取り組んでもらいました。年末にもかかわらず、65名もの多くの方々が参加されました。

本公開講座は、eラーニング専門家育成プログラムの中核部分をまとめ、コンテンツを再編成した上で、さらに各授業の開発・実施において得られたノウハウ、学習効果の評価法等も盛り込みました。プログラムでは、入門講義科目3科目の内容を抜粋した入門コースを参加者全員に受講してもらい、その後、eラーニング専門家5職種、つまり、インストラクショナルデザイナー、コンテンツスペシャリスト、インストラクタ、メンタ、ラーニングシステムプロデューサーからなる専門コースに分かれて、それぞれ受講してもらいました。



本公開講座は、教職員を主な対象としていたため、27名もの教職員が参加されました。現在、企業ばかりでなく、教育機関においてもeラーニングの普及が急速に進んでいます。特に大学においては、授業の質を改善すること、あるいは社会人学生を獲得することなどを目的として、本格的な導入が進んでいます。

しかし、教育コンテンツが不足していたり、その制作がおぼつかなかったり、あるいは、質疑応答や学習支援が行き届いていなかったり、といった問題が深刻なようです。これらの問題を克服するために、本公開講座に参加されたという教職員も大勢いました。インストラクショナルデザイナーコースの人気が高かったのは、このためとも言えるでしょう。

日本はeラーニングの普及が先進諸外国に比べてまだ遅れていますが、その最大の原因はeラーニング専門家の育成が立ち遅れていることにあると言われています。にもかかわらず、日本でeラーニング専門家の育成に本格的に取り組んでいる機関はまだごく僅かにすぎません。特に、学部学生を対象としたプログラムを提供しているのは、eLPCOだけです。教職員、さらには企業人からeLPCOの取り組みへの関心が高いのには、こうした背景があるのです。

本公開講座は、多くの参加者から高い評価を得ることができました。特に、集合研修と自己学習を組み合わせたブレンディッドラーニングは非常に新鮮であったようで、また、受講者の立場からのeラーニングへの理解が深まったとのご意見を多数いただきました。

eLPCOとしても大変有意義なものとなりました。参加者の方からは、良い評価とともに、改善点についても貴重なご意見をいただきました。こうしたご意見を反映すべく、全力を尽くしていきたいと考えております。

学内外の皆様、この度はご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後ともコンテンツの公開を積極的に実施し、社会に貢献して行きたいと考えておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

eラーニング専門家育成プログラム2007年度参加者募集!

eラーニング専門家育成プログラムとは

eラーニング専門家育成プログラムは、総合研究所eラーニング人材育成研究センター(eLPCO:エルプロ)が2006年度より開講した資格認定プログラムです。このプログラムは、学部・学科の枠を超えた学際的なカリキュラムと、eラーニング授業によって、5職種のeラーニング専門家の育成を目指します。独自のカリキュラムに沿って規定の科目を受講して条件を満たし、総合試験に合格すれば、職種ごとのeラーニング専門家認定証を発行いたします。

5職種のeラーニング専門家

専門職名	人材像
インストラクショナルデザイナー	インストラクショナルデザイン手法を用いて、eラーニングの教育プログラムを設計、評価する専門家
コンテンツスペシャリスト	eラーニングの教育プログラムの設計を反映して、適用すべきメディアの特徴を踏まえた教材を制作する専門家
インストラクタ	授業を通じて教授活動をする専門家
メンタ	eラーニングにおいて、学習者に対する質疑応答や情意面からの学習支援を行い、学生の主体的な学習に対する動機付けを行う専門家
ラーニングシステムプロデューサー	学習管理システムの運用や、コンテンツ管理を通して、技術的な側面から授業運営を支援し、さらにeラーニングシステムの要件定義や設計にも関わる専門家

プログラムの特徴

このプログラムは、青山学院大学が公式に資格認定する専門家育成プログラムです。青学生は、プログラムへの参加費用は一切かかりません。その他には、「eLPCO産学連携コミュニティ」を立ち上げ、就職活動支援イベントや関連業界の企業人との交流会など、プログラムに参加する学生と産業界を結びつけるさまざまな催しを開催しています。プログラムに参加している学生には、貴重な社会人との交流体験となるこれらのイベントなどへの優先的にご案内するなどの特典があります。

まずは合同ガイダンスにご参加を

4月上旬に合同ガイダンスを開催いたします。詳細なスケジュールは、3月下旬にeLPCOのWebサイト(下記URL)からお知らせします。

<http://elpco.a2en.aoyama.ac.jp/>



こんな方のためのプログラム

- ・eラーニングに興味がある人
- ・教師を目指している人
- ・eラーニング業界に就職を希望している人
- ・ダブルスクールを検討している人
- ・就職活動の武器を探している人
- ・自分の知識の世界を広げてみたい人

科目抜粋

- ・学習科学と教育方法
- ・認知的学習
- ・異文化リテラシー
- ・情報サービス特論
- ・情報メディア利用論

お問い合わせ先

eラーニング人材育成研究センター
<http://elpco.a2en.aoyama.ac.jp/>
 担当: 志村
elpco_koho@a2en.aoyama.ac.jp
 TEL. 03(3409)8111(内線12082)

本学を含む14大学・短大と東京都町田市の 連携事業がまもなくスタート!

2006年11月、東京都町田市は、青山学院大学を含む市内および周辺13大学・1短期大学と包括連携協定を締結しました。この包括連携協定によって、大学と自治体が相互に情報交換を行い、地元の中小企業や商店街活性化などの調査・分析、相互の施設の有効活用、学生の教育ボランティア、退職した団塊世代や社会人向けの講座開催などを連携して進めていく予定です。本学はこの包括連携協定を、地域社会と大学の関係を深めるチャンスととらえ、積極的に取り組んでいく予定です。



2007年度 学年初頭行事について（抜粋）

授業開始前の行事についてお知らせします。各自、あらかじめ計画して、指定の日時に登校してください。
ここに掲載する行事以外にも重要な行事がありますので、下表の「書類配布」において配布する資料を必ず確認し、行事に出席してください。
（「学生情報サービス」で、より詳細な情報を確認することができます）

青山キャンパス

【文学部心理学科（夜間主） 新2年生（留年者を含む）】
4月2日（月） 18:00～ プレースメント・テスト 931教室
【昼間部】4月3日（火）新4年生 4月5日（木）新3年生 4月6日（金）新2年生（文学部心理学科（夜間主）のみ）（各学年とも留年者を含む、経済学部は注2参照）

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	備考	学生証更新	健康診断（7号館2階音楽室）
文学部 教育学科	12:30	ガウチャー 記念礼拝堂	13:00	1123教室		4月3日（火）、5日（木）、6日（金） 9:30～11:30 13:00～15:30 1号館2階または2号館2階 所要時間:約30分（混雑時） ※4月4日（水）は入学式当日の為、 更新はできません。	4月3日（火）、5日（木）、 6日（金）、7日（土） 9:00～11:00 13:00～15:00 17:00～19:00
文学部 英米文学科	10:30		11:00	910教室（新4年生） 930教室（新3年生）			
文学部 フランス文学科	12:30		13:00	922教室			
文学部 日本文学科	10:30		11:00	1173教室			
文学部 史学科	12:30		13:00	920教室			
文学部 心理学科（昼間主）	12:30	1143教室	13:00	1143教室	注1参照	第二部と同じ	
経済学部	9:30	9号館1階	注2参照				
法学部	9:30	4号館1階	11:00	420教室	10:00～11:00始業伝達式		
経営学部	12:45	9号館1階	13:15	910教室			
国際政治経済学部	12:45	6号館1階	13:15	621教室			
文学部 心理学科（夜間主）	17:30	1143教室	18:30	1143教室	注1参照		

注1) 新3・4年生は、履修ガイダンス終了後「卒業研究」オリエンテーションを実施します。
注2) 経済学部は、4月3日（火）および4月5日（木）に、新3・4年生共通で書類配布を行います。また、4月3日（火）に新3・4年生合同で履修ガイダンス（10:00、910教室、希望者）を実施します。

【第二部（夜間部）】4月4日（水）新4年生 4月5日（木）新3年生 4月6日（金）新2年生（各学年とも留年者を含む、経済学部第二部は注3参照）

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	備考	学生証更新（1号館2階）	健康診断（7号館2階音楽室）
文学部第二部 教育学科	17:30	7号館1階 学生ロビー	18:30	1135教室		4月4日（水）、5日（木）、6日（金） 16:30～19:30 所要時間:約30分（混雑時）	4月3日（火）、5日（木）、 6日（金）、7日（土） 9:00～11:00 13:00～15:00 17:00～19:00
文学部第二部 英米文学科				1134教室			
経済学部第二部				注3参照			
経営学部第二部				930教室	4月4日（水）のみ921教室		

注3) 経済学部第二部は、4月4日（水）～4月6日（金）に、新2～4年生共通で書類配布を行います。また、4月5日（木）に新2～4年生合同で履修ガイダンス（18:30、621教室、希望者）を実施します。

●教務課からのお知らせ

※履修ガイダンスの所要時間は30分～60分程度です。

※2007年度の編入学・転部・転学部・転学科生は「2007年度学年初頭行事案内（編入学・転部生・転学部生・転学科生）」を参照してください。

●学生部からのお知らせ（学生証更新について）

※学生証裏面の在籍確認シールは、毎年4月に更新となります。新しい在籍確認シールの交付を受け、
現住所、大学から自宅までの通学区間をボールペンで記入後、各自で貼り直してください。
なお、更新時に学生証を紛失している場合は、あらかじめ学生部厚生課にて再交付の手续を済ませて
ください。

※大学院生（青山キャンパス）は、大学院事務室掲示板を参照してください。

●保健管理センターからのお知らせ（健康診断について）（受診の義務:青山学院大学学生共通細則第9条）

※学年等により検査項目が異なります。

1:視力検査のため、メガネ、コンタクト使用者は必ず持参してください。

2:女子はレントゲン検査のために、無地に近いTシャツを着用もしくは持参してください。

3:健康診断を受診できなかった場合は、外部診療所へ行き自費で受診することになります。依頼書等
がセンター窓口にあるので取りに来てください。健康診断未受診の場合、健康診断証明書は発行で
きません。（就職・教育実習・介護等体験・奨学金・体育集中講義等に必要です。）

4:4年生は、受診前日までに検尿容器を7号館1階保健管理センターまで取りに来て、健診受診時に採
尿済み容器を持参してください。

※学生健康診断について何か質問のある方は、直接保健管理センター窓口もしくは03-3409-7896に
て確認してください。

相模原キャンパス

4月2日（月）新2年生（文・経済）／新3・4年生（理工） ☆は学生番号を表す

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	健康診断（D棟）
文学部2年生 英米文学科	13:15	E棟 1階廊下	13:45	E101	13:00～16:00 更新場所:F307・F308	4月2日（月）、3日（火） 9:00～10:30 13:30～16:30
文学部2年生 日本文学科	13:15		13:45	E202		
文学部2年生 心理学科（昼間主）	13:15		13:45	E204		
経済学部2年生	13:30		14:00	E301（☆12106001～12106330） E302（☆12106331～最終番号および2005年度以前入学者）		
理工学部3年生	9:30		10:00	E201（物理・数理、化学・生命科学、機械創造） E202（電気、経シス、情テク）		
理工学部4年生	11:30		12:00	E201（物理・数理、化学・生命科学、機械創造） E202（電気、経シス、情テク）		

4月3日（火）新2年生（文・法・経営・国際・理工）／大学院（理工） ☆は学生番号を表す

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新	健康診断（D棟）
文学部2年生 教育学科	11:00	E棟 1階廊下	11:30	E301	13:00～16:00 （ただし、理工学研究科1年生は 学生証の交付になります。） 更新場所:F307・F308	4月2日（月）、3日（火） 9:00～10:30 13:30～16:30 （ただし、理工学研究科 1年生は4月5日（木） 13:30～16:00に 必ず受診してください。）
文学部2年生 フランス文学科	11:00		11:30	E302		
文学部2年生 史学科	11:00		11:30	E303		
法学部2年生	13:00		13:30	E101（☆13106001～13106300） E102（☆13106301～最終番号および2005年度以前入学者）		
経営学部2年生	9:30		10:00	E101（☆14106001～14106330） E102（☆14106331～最終番号および2005年度以前入学者）		
国際政治経済学部2年生	12:30		13:00	E201、E202		
理工学部2年生	10:30		11:00	E201（物理・数理、化学・生命科学、機械創造） E202（電気、経シス、情テク）		
理工学研究科	12:30		13:00	E301		

4月6日（金）文学部1年次留年生 注1) 履修ガイダンス開始前に同じ教室で「履修登録資料」の配布があります。

学科	書類配布	場所	履修ガイダンス 注1)	場所	学生証更新	健康診断（D棟）
英米文学科	9:30	E棟 1階廊下	10:00	E101	4月5日（水）以降、 窓口事務取扱時間内に、 学生生活グループ（B棟1階）で 行います。	4月5日（木）、6日（金） 9:00～10:30 13:30～16:00
史学科	9:30		10:00	E204		
心理学科（昼間主）	9:30		10:00	E205		
教育学科	12:00		12:30	E102		
フランス文学科	12:00		12:30	E103		
日本文学科	12:00		12:30	E104		

※学年初頭の各行事および開始時間は上記のとおりです。各自あらかじめ計画して、指定の日時に出席してください。

※その他の行事については、書類配布時に配布される「学年初頭行事」を参照してください。

※履修ガイダンスの所要時間は60分程度です。

※健康診断の詳細は、学部掲示板または「学年初頭行事」を参照してください。

※2年次編入学・転学部・転学科生も上記行事に参加してください。

なお、健康診断は4月5日（木）・6日（金）のいずれかで受診してください。

※健康診断を未受診の場合は外部（自費で約4000円）で受診することになり、証明書などの発行はできません。

卒業生へのメッセージ



今春、卒業する皆さんへ

校友会会長 安藤 孝四郎

今春、本学を卒業する学部生・研究科生の皆さんに心からお祝いを申し上げます。

青山学院大学の卒業生は、約17万人を超えるまでになりました。今日、大学の社会的評価は、卒業生の社会における活動によってなされるといわれています。

これから巣立っていく皆さんの活躍が大いに期待されることです。

さて、卒業する皆さんにはもう一つの世界があります。それは「青山学院校友会」に参加することです。青山学院の卒業生は卒業と同時に全員、正会員として校友会に迎えられます。

設立114年の歴史をもつ「青山学院校友会」は、全国の都道府県や主要都市に「支部」があり、その組織は海外にも広がっています。また学部・学科には、それぞれ「学部同窓会」や「学科同窓会」が結成されているので、これらに積極的に参加されるようお勧めします。毎年9月23日に青山キャンパスで開催される大学同窓祭（ホーム・カミングデー）に是非参加してみてください。学生時代とはまた違う青学を体験できると思います。

校友会は校友（卒業生）相互の親睦と母校との絆をつなぐために、諸先輩が長い歴史を経て作り上げて来た組織です。効率優先の競争社会にあって、キリスト教主義による教育を標榜する建学の精神は校友会にあっても正しく受け継がれております。諸先輩との交流は皆さんの人生を必ず有意義なものにしてくれることと思います。

青山学院校友会センター

校友センター窓口案内

「青山学院校友会センター」は卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口です。センターでは、同窓会、校友会の地方支部および海外支部、各種OB会、クラス会等の紹介・取次をはじめ、「青山学院維持協力会」の入会受付、「青山学報」定期購読の申込受付、校友会集会所利用の申込受付、さらに校友向け情報誌「AOGAKU Chimes」の発行・発送など、さまざまな活動を展開。また、卒業生全員が会員となる「青山学院校友会」の本部事務も担当しています。これらの活動には卒業生の基本情報が不可欠です。個人情報の管理には最大限の注意を払っておりますので、住所・氏名等の変更がありましたら、必ず校友センターまでご連絡ください。

「AOGAKU Chimes」（あおかく チャイムズ）について

青山学院卒業生全員を対象に情報誌「AOGAKU Chimes」を年1回発行しています。青山学院の情報を全卒業生に等しく伝えることと、積極的な情報発信を目的としております。最新号の第7号では、学院の最新情報を2006年の話題を中心にコラム形式で特集。そのほか卒業生や教員へのインタビューや「青学オリジナルグッズ」など多彩な誌面作りを行っています。

発行は青山学院と青山学院校友会が共同で行っています。今後さらに誌面を充実させるためにも、卒業生の皆様のご感想・ご意見をお寄せください。



ホームページもご覧ください。 <http://www.alumni-aogaku.jp/>

保存版

卒業後の連絡先一覧

03-3409-8111 (代表・青山キャンパス)
042-759-6000 (代表・相模原キャンパス)

大学ホームページ
<http://www.aoyama.ac.jp>

	担当事務局	お問い合わせ先	備 考
卒業・修了、成績証明書の交付	学務部教務課	03-3409-7830	人文・社会科学系学部対象 ※第二部（夜間部）を含む
	学生支援ユニット学務グループ（※）	042-759-6003	理工学部・理工学研究科対象
	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
科目等履修生案内	学務部教務課	03-3409-8047	人文・社会科学系学部対象 ※第二部（夜間部）を含む
	学生支援ユニット学務グループ（※）	042-759-6003	理工学部・理工学研究科対象
	学務部教職課程課	03-3409-9634	教職課程対象
	学生支援ユニット学務グループ（※） （教職課程担当）	042-759-6032	
科目履修生案内	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
	学務部教職課程課	03-3409-9634	免許状授与証明書は、免許状の交付を受けた都道府県のエデュケーション委員会へお問い合わせください。
基礎資格および単位修得証明書の交付	学生支援ユニット学務グループ（※） （教職課程担当）	042-759-6032	
公開講座案内	庶務部庶務課（公開講座担当）	03-3409-7955	3月上旬より「2007公開講座 GUIDE BOOK」を配布予定です。
図書館の利用	図書部運用課閲覧係	03-3409-7858	卒業生の図書資料の貸出には、利用カードの申請が必要です。
	教育・学習支援ユニット図書グループ（※）	042-759-6027	http://www.agulin.aoyama.ac.jp
大学院案内	大学院事務局	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
	学生支援ユニット学務グループ（※）	042-759-6033	理工学研究科対象
専門職大学院案内	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
キリスト教に関する相談（教会紹介など）	宗教センター（ウェスレー・ホール1F）	03-3409-6537	
住所・氏名変更連絡先 「青山学報」定期購読の受付 「青山学院維持協力会」の入会受付 校友会支部等連絡先紹介 校友会集会所利用の申込受付	青山学院校友会センター 青山学院校友会本部 （アイビーホール青学会館2F）	03-3409-6645 03-3409-9773 FAX 03-5485-3616 校友会集会所専用 03-3409-8628	校友会ホームページ http://www.alumni-aogaku.jp/ 校友センターホームページ http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html E-mail agkoyu@jm.aoyama.ac.jp alumni@jm.aoyama.ac.jp
学院の歴史資料閲覧	資料センター	03-3409-6742	資料閲覧希望の場合は、3日前までに連絡してください。 http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/
「青山学院EVERGREEN21募金」などの受付	募金事務局（法人本部3F）	03-3409-6208 FAX 03-3409-3890	冠奨学金の申込受付 遺贈による寄付相談も承ります。
大学同窓祭	大学同窓祭実行委員会事務局 （ウェスレー・ホール3F）	TEL・FAX 共通 03-3409-8990（直通）※月・水・金のみ	今年も9月23日（日）に開催する予定です。実行委員としてお手伝いして下さる仲間を募集中です。
婚礼・会合施設	ブライダルサロン （アイビーホール青学会館内）	03-3409-8181（代表）	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・アドバルーン・セミナーなどの会合などにご利用ください。校友には、割引特典があります。 http://www.aogaku-kaikan.co.jp

（※）相模原キャンパス

●AGUニュースのバックナンバーは、大学ホームページでご覧になれます。

青山学院大学教育ローン

【特徴】

- 1.一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
- 2.担保・保証人は不要です(学生本人が融資を受ける場合、銀行によっては保証人が必要になります)。
- 3.在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
- 4.原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
- 5.既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で**銀行の定めた資格を有する**ことが必要です。

【必要書類】

- 1.資金使途確認資料…学費納付書等
- 2.本人確認資料……………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか一通
- 3.所得確認資料……………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか一通

【注意事項】

- 1.契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
- 2.融資は学費(授業料他)等の教育資金に限りです。
- 3.銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。
- 4.年間学費相当分の借入れを希望する場合は、前期分学費納付用紙・後期分学費納付用紙が必要です。この場合、青山キャンパス所属の学部生は学生課、院生は大学院事務室、専門職大学院生は専門職大学院事務室、相模原キャンパスの学部生・院生は学生生活グループへ申し出てください。必要な学費振込用紙を送いたします。

【提携銀行】 (代表問合せ支店)

三井住友銀行	渋谷支店お客様相談課	TEL 03-3463-0102
みずほ銀行	渋谷中央支店ローン担当係	TEL 03-3462-0315
りそな銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3498-3211
三菱東京UFJ銀行	青山支店お客様相談課	TEL 03-3409-3211
横浜銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3463-2151

2006年度退職専任教員

2007年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です。
(○印は定年退職される教員)

三谷	大紀	文学部 教育学科 助手
吉川	幸子	文学部 教育学科 助手
永瀬	史人	文学部 史学科 助手
清水	克俊	経済学部 経済学科 助教授
深江	敬志	経済学部 経済学科 助手
元山	斉	経済学部 経済学科 助手
BROWNE,C.M.		経営学部 教授
安本	雅典	経営学部 経営学科 助教授
井上	政久	理工学部 物理・数理学科 教授
○藤本	英夫	理工学部 物理・数理学科 専任講師
川村	友美	理工学部 物理・数理学科 助手
堀田	知佐	理工学部 物理・数理学科 助手
宮原	慎	理工学部 物理・数理学科 助手
岩堀	史靖	理工学部 化学・生命科学科 助手
高田	由貴	理工学部 化学・生命科学科 助手
武井	史郎	理工学部 化学・生命科学科 助手
石崎	博基	理工学部 電気電子工学科 助手
谷口	貴士	理工学部 電気電子工学科 助手
濱根	洋人	理工学部 電気電子工学科 助手
渡邊	慎也	理工学部 電気電子工学科 助手
山脇	壽彦	理工学部 電気電子工学科 理工学部講師
○隆	雅久	理工学部 機械創造工学科 教授
竹本	幹男	理工学部 機械創造工学科 教授
佐藤	博之	理工学部 機械創造工学科 助手
長	秀雄	理工学部 機械創造工学科 助手
○矢頭	介久	理工学部 情報テクノロジー学科 助教授
飯田	敬輔	国際政治経済学部 国際政治学科 教授
太田	宏	国際政治経済学部 国際政治学科 教授
戸堂	康之	国際政治経済学部 国際経済学科 助教授
大竹由美子		情報科学研究センター 助手
吉田	真一	情報科学研究センター 助手
李	珍泳	国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻 助手
○伊藤	文雄	国際マネジメント研究科 国際マネジメントサイエンス専攻 教授
○吉田	耕作	国際マネジメント研究科 国際マネジメントサイエンス専攻 教授
松田	政行	法務研究科 法務専攻 特任教授

その他の月日をもって退職された教員

西井	正造	文学部 教育学科 助手 (2006.10.31 任期満了)
大庭	昭博	経営学部 教授 (2006.4.3 逝去)
田中	隆雄	経営学部 経営学科 教授 (2006.10.11 逝去)
生駒	静	経営学部 経営学科 助手 (2006.6.30 任期満了)
塚越	加奈	経営学部 経営学科 助手 (2007.2.28退職)
野澤	昭雄	理工学部 電気電子工学科 助手 (2006.8.31 退職)
張	亜軍	理工学部 機械創造工学科 助手 (2006.11.30 退職)

Club & Circle Information

問い合わせ先 〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定 (2007年4月～5月)

アイスホッケー部 関東大学アイスホッケー選手権大会 (4月)
硬式野球部 東都大学野球春季リーグ戦 (4月)
サッカー部 JR東日本カップ2007 第81回関東大学サッカーリーグ戦 (4月)
準硬式野球部 東都大学準硬式野球春季リーグ (4月)
水泳部 春季東京都記録会 (4月)
軟式野球部 東都大学軟式野球連盟春季リーグ戦 (4月)
バレーボール部男女 春季関東大学バレーボールリーグ戦 (4月)
フェンシング部 関東学生フェンシングリーグ戦大会 (4月)
ボクシング部 関東大学ボクシングトーナメント戦 (4月)
箏尺八研究会 関東学生三曲連盟新人演奏会 (4月)
競技ダンス部 東都大学学生競技ダンス選手権大会 (4月)
二部準硬式野球部 東都大学準硬式野球春季リーグ (4月)
二部バレーボール部 関東大学二部バレーボール大会春季リーグ戦 (4月)
ゴルフ部 関東大学対抗Dブロック団体戦 (5月)

射撃部 春季関東学生ライフル射撃選手権大会 (5月)
少林寺拳法部 第44回少林寺拳法関東学生大会 (5月)
ソフトテニス部 東都大学春季リーグ戦 (5月)
バスケットボール部男女 関東大学バスケットボール選手権 (5月)
ヨット部 関東学生ヨット春季選手権大会 (5月)
ラグビー部 東日本セブンス大会 (5月)
パワーリフティング部 関東学生パワーリフティング選手権大会 (5月)
オーケストラ部 第90回定期演奏会 (5月)
グリーンハーモニー合唱団 東京六大学混声合唱連盟定期演奏会 (5月)
ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 京王沿線大学ピアガーデンビッグコンサート (5月)
二部バドミントン部 関東学生バドミントン春季リーグ戦 (5月)

主要活動報告 (2006年12月～2007年3月)

硬式庭球部女子 関東大学対抗テニス選手権 準優勝
サッカー部 関東大学サッカーリーグ戦2部2位 (1部昇格)
バスケットボール部男子 第58回全日本学生バスケットボール選手権 4位
バレーボール部女子 平成18年度第53回全日本大学バレーボール選手権大会 優勝
レスリング部 全日本大学選手権大会 個人の部 優勝・3位
ラクロス同好会 関東学生ラクロスリーグ戦 (男子) 2部1位 (1部昇格)
二部硬式庭球部 関東二部硬式庭球連盟 個人戦ダブルス 優勝
吹奏楽/バントワリング部 東京都大学吹奏楽連盟第46回合同演奏会

2007年度 公開講座

本学では、大学での教育および研究の成果を広く社会に公開し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命から1990年より公開講座を開講しています。

本学公開講座は、テーマに基づき1シリーズ5講座で構成され、年齢や資格による受講の制限はなく、どなたでも受講いただけます。

お問い合わせ先 青山学院大学 庶務部庶務課企画運営係(公開講座担当)
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL. 03-3409-7955(直通)
本学公開講座ホームページ <http://www.aoyama.ac.jp/extension/index.html>

2007年度は、青山キャンパスにて5シリーズおよび特別公開講座と題して1シリーズの計6シリーズ(30講座)、相模原キャンパスにて4シリーズ(20講座)の計10シリーズ(50講座)を開講する予定です。なお、ここに掲載したものは7月までに開催で後半(10月～12月)については第38号でお知らせする予定です。

青山キャンパス開講

●コミュニケーションの世界(渋谷区教育委員会 共催講座) 毎週土曜日 14:30～16:00

- 5月12日●ビジネス英語の世界—ジャーゴンからビジネス英語が見えてくる—
青山学院大学経営学部教授 秋山 武清
- 5月19日●国際言語としての英語—普及と変容—
青山学院大学国際政治経済学部教授 本名 信行
- 5月26日●科学技術英語の世界—科学技術分野の論文、その他の文書作成上の明確なルール—
早稲田大学名誉教授 篠田 義明
- 6月2日●通訳の世界—同時通訳のプロセスから見る人間の言語理解と産出—
青山学院大学文学部教授 染谷 泰正
- 6月9日●情報の世界—ネットワーク社会に求められるもの—
青山学院大学経営学部教授 森川 信男

●企業価値創造経営と企業の社会的責任(CSR)～グローバル時代の企業経営～ 毎週金曜日 19:00～20:30

- 6月15日●企業価値創造経営とは—新たな経営パラダイムの模索—
青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授 高橋 文郎
- 6月22日●コーポレート・ガバナンスと企業倫理—収益性追求とコンプライアンスのバランスをどう考えるか—
青山学院大学大学院国際マネジメント研究科非常勤講師 井手 正介
- 6月29日●企業の社会的責任(CSR)—持続可能な社会にむけた企業の役割とは—
青山学院大学大学院国際マネジメント研究科非常勤講師 河川 真理子
- 7月6日●M&Aと企業価値向上—株主価値が企業価値か—
青山学院大学大学院国際マネジメント研究科非常勤講師 吉永 康樹
- 7月13日●グローバル時代の人材マネジメント—変化する企業の人材戦略—
青山学院大学大学院国際マネジメント研究科助教授 須田 敏子

●キリスト教倫理の現代的争点 毎週土曜日 14:30～16:00

- 6月16日●キリスト教政治倫理の現代的争点—自由は自由を守るか—
聖学院大学総合研究所准教授・青山学院大学非常勤講師 深井 智朗
- 6月23日●キリスト教経済倫理の現代的争点—企業の社会的責任と新しい経済活動—
青山学院大学 大学宗教部長・経済学部教授 東方 敬信
- 6月30日●キリスト教情報倫理の現代的争点—情報化社会の人間とキリスト教—
青山学院大学名誉教授 小原 信
- 7月7日●キリスト教生命倫理の現代的争点—死を考える—一人称の死から二人称の死へ—
青山学院大学国際政治経済学部教授 茂 牧人
- 7月14日●キリスト教環境倫理の現代的争点—公共哲学との接点から—
東京基督教大学教授・青山学院大学非常勤講師 稲垣 久和

相模原キャンパス開講

●イメージの力を読む—「私」と「他者」のあいだで 毎週土曜日 14:30～16:00

- 5月12日●暴力の表象—フランス・宗教戦争から「新世界」へ—
青山学院大学文学部教授 平野 隆文
- 5月19日●「私」という幻影—写真とフランス文学—
青山学院大学文学部教授 荒木 善太
- 5月26日●故郷・国土の風景—アイルランドとイギリスの詩を通して—
青山学院大学文学部助教授 伊達 直之
- 6月2日●社会のなかの「女性」—現代フランスの広告を読む(1)—
青山学院大学国際政治経済学部教授 支倉 壽子
- 6月9日●現代における「美」の基準—現代フランスの広告を読む(2)—
青山学院大学文学部教授 DHORNE, F.

●外国人との共生のために、今なにをすべきか? ～少子高齢化・人口減少社会を迎えた日本と外国人の受け入れ 毎週土曜日 14:30～16:00

- 6月16日●欧米諸国からの経験を学ぶ
～ドイツ、アメリカ、イギリスを中心として—
千葉大学大学院専門法務研究科教授 手塚 和彰
- 6月23日●ドイツにおける外国人問題への取組
～ヘッセン州の取組を中心に—
内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官 丸尾 眞
- 6月30日●外国人と労働問題
～外国人が日本で働くときに直面している問題とは?—
青山学院大学法学部助教授 藤川 久昭
- 7月7日●外国人と社会保障問題
～どこまで保護を及ぼすべきか?—
青山学院大学法学部助教授 壺 豊

- 7月14日●総括討論
～日本における取組と今後の対応を考える(シンポジウム形式)—
千葉大学文学部教授 尾形 隆彰
埼玉大学経済学部教授 小野 五郎
内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官 丸尾 眞
青山学院大学法学部助教授 藤川 久昭(司会)

各講座の一覧・申込方法などの詳細を掲載した「2007公開講座ガイドブック」をご希望の方は上記までお問い合わせいただくか、本学ホームページより申し込みください。
※講座テーマ等に変更が生じる場合があります。2007年1月31日時点の情報です。

2007年度 首都圏父母懇談会

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況をご父母の皆様にお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に父母懇談会を実施しています。

首都圏(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県)在住の2・3年生のご父母を対象とした父母懇談会の日程は、右表を予定しています。対象の方には4月下旬以降に改めてご案内いたします。また、地区父母懇談会の日程は次号でお知らせします。

【お問い合わせ先】 庶務部庶務課(父母懇談会担当) TEL. 03-3409-8568

東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいのご父母を対象

対象学部・学年	開催日
経営学部/経営学部第二部 2・3年生	5/19(土)
国際政治経済学部 2・3年生	5/26(土)
法学部 2・3年生	6/ 9(土)
文学部/文学部第二部 2・3年生	6/16(土)
経済学部/経済学部第二部 2・3年生	6/23(土)
理工学部 2・3年生	10/ 6(土)

※日程が変更になる場合があります。



川崎 仁志
文学部教育学科 教授

誌上公開講座 No.36

青山スタンダード

テーマ別科目 身体の技能 「健康医学」

「人生は丸かじりで楽しんでください」が私からのメッセージ

丸かじりとは補完的ということ。男と女、善と悪、芸術と科学…補完的だから楽しめる。

私は内科医なのでいわゆる理系の人間。理系文系という物言いがよろしくないのは承知しているが、青学で講義をしていると「ヤッパ、ソートー違う、やっぱブンケイだ」と実感する。文系がだめじゃなく、その良さも生かしつつ、理系の良さも理解してもらいながら両者補い合って(丸かじりして)健康情報を理解するというスタンスに決めている。

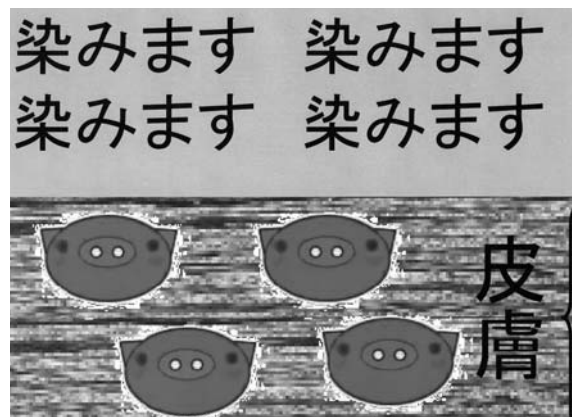
保健体育は、多くの中高でつまらない暗記科目に成り下がっているし、職場の健康相談の利用率も低い。なのに、ガセネタ満載の健康番組は高視聴率。そこで授業のつかみとして、世にあふれるとんでもない健康情報を取り上げ、そのばかばかしさ(それは面白さでもあるのだが)を、科学的にはこうだ、しかし、企業論理はこうだと、パワーポイントでアニメや動画を使用し興味を持ってもらう。そして、大学生になるまで子供の健康を守ってきたお母さんたちが、健康情報に對いかにお馬鹿であり、そしていかに楽しみ、いかに必死で、いかに打たれ強いかなども触れると理解に幅が出ると考えている(ここまで講義約10分費やす)。そうして、最終的に大学生として恥ずかしいレベルに持ってゆくという手順をとる。

興味を持ったんでしょ、試験は医学的客観問題もかなりよくできるようになる。

一例を提示。「コラーゲン塗って肌プルプルって、そんなわけないでしょ。」って注意を向けさせ、「いいですか、化粧品のコラーゲン原料は狂牛病が出てから牛コラーゲンから豚コラーゲンになったのよ。某社のコラーゲンはナノテクノロジーで細かくして、お肌に浸透するのよって、あんた!豚が肌にしみてどうすんのよ!」って言ってアニメを見せる。では、どうやって正しい情報を取ればいいのか(メディアリテラシー)に触れ、コラーゲンという蛋白が高分子で肌から浸透しないことや、細かくしたらそれはもうコラーゲンではないし、じゃ食べればいいのかという考えが如何に軽薄であるかを知らしめる。そのために「Science」のような一流紙に触れさせ、本当に必要な、たとえばがんや栄養などの話に導き、エビデンスのある国立がんセンターの文献などを見せてゆく。お肌プルプルになりたいという「心理的理解」で「染みるのよ! (動画1)」と化粧品を見ていただけじゃなく、「染みないのよ! (動画2)」という「物理的(科学的)理解」もして、両者補完的に化粧品から健康全体まで捉えなさいと

導く。

さらに、身体医学のみならず精神医学にも興味を持たせるために、「じゃあ、みんなのお母さんがいい年して、なぜに豚塗ってまで美白やダイエットに励まねばならないと思う?結構必死なのよ、ワーカール?」と注意を向け、「そりゃ、人それぞれに決まってるけどさ、あんたたちが大学出て、子育てが終わって、バカ娘とバカ息子(笑)になり、一生懸命子育てして、結局これか?という徒労感や、子供がもうじき家を出て、今までろくに向き合ったことのない旦那とこれから二人切りか〜、はああ〜。人生下り坂で、シミやシワにも悩まされ、胸も垂乳の母状態になり、誰だってうつ病になるのよ、そりゃ更年期障害も出るのよ!ワカルッ?それで、坂から転げ落ちないために必死の抵抗で牛でも豚でも熊でも塗るのよ!」ってやると実感を持って精神の講義を聴く。そうして、教科書に導く。残念ながら、大学病院で教えている医学生のように専門用語も使用できない。高血圧という言葉も知らない学生も決してまれではない。それでも、生活習慣病から認知症まで十分な健康力をつけてさしあげます(笑)。



2007年度 大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験志願者数

2007年度大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験は、昼間部・第二部(夜間部)すべての出願が終了しました。一般入学試験の志願者数は、昼間部34,209名、第二部(夜間部)2,335名、合計36,544名(昨年度36,688名)となり、本年度新規に国際コミュニケーション学科を加えて実施した大学入試センター試験利用入学試験の志願者は9,006名(昨年度11,141名)となりました。

なお、2007年度志願者数の詳細については、大学ホームページにて公開しています。



2007年度一般入学試験

2007年度オープンキャンパス等開催日程

オープンキャンパス(全学部対象) 予約不要・入退場自由。

7/15(日)	10:00~16:00	場所:相模原キャンパス
7/22(日)※	10:00~17:00	場所:青山キャンパス
9/16(日)※	11:00~16:00	場所:青山キャンパス

※青山学院女子短期大学同日開催

社会人のための大学・大学院説明会

7/28(土) 14:00~17:30 場所:青山キャンパス
 本学への入学を希望する社会人等を対象に実施します。
 詳細については、決定次第、大学ホームページにて随時お知らせします。

お詫びと訂正

前号AGU NEWS第35号に誤りがありましたので以下のとおり訂正いたします。
 11ページ「2007年度学事(学部)」記事: (誤)「青山第一部」→(正)「青山昼間部」
 14ページ「春期休業中の窓口案内」表中: 青山キャンパス教務課 備考欄(誤)「2/6~」→(正)「2/5~」、広報入試センター 窓口事務取扱期間欄(誤)「2/7~」→(正)「2/5~」謹んでお詫び申し上げます。

アドバイザーグループ紹介 ⑩

体験を通して「能」を知る 〈高橋アド・グル〉

このアドグルでは、仕舞(シマイ)や謡(ウタイ)を実際に体験し、また能楽堂で能を鑑賞することを中心に活動しています。仕舞は能の舞のごく一部だけを舞うもので、謡は能の台本のような謡本に書かれている筋書きやせりふを声に出してうたうものです。2005年度から始まったアド・グルで、月1回程度の体験稽古を青山キャンパスと相模原キャンパスの和室で行っています。また能鑑賞を年数回企画し、終演後は能楽堂近くの店でお茶とケーキ等の時間も設けるようにしています。

私自身海外で8年余り過ごした時に日本の理解が不十分なことを痛感し、その後こうした日本の伝統芸能に興味をもった次第です。プロの能楽師の指導を6年余り受けある程度基礎ができた段階で、師匠の



2008年度より新たに文学部のフランス文学科と史学科で、「大学入試センター試験利用入学試験」を実施

本学では2008年度より、文学部のフランス文学科と史学科で、新たに「大学入試センター試験利用入学試験」を実施いたします。実施教科・科目等の詳細については、大学ホームページをご覧ください。

- ・文学部 フランス文学科 募集人員 10名
- ・文学部 史学科 募集人員 5名

News Index 2006.12~2007.1

2006年12月上旬~2007年1月中旬までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

06年12月

- 法学研究科ビジネス法務専攻修士課程・博士後期課程説明会開催のお知らせ
- 本学が慶南大学(韓国)と学術協定調印
- 北川洋之君(理・電気電子工4年)が1ビット技術賞・優秀賞を受賞
- 本学陸上競技部 米澤 豪君が、「第83回 東京箱根間往復大学駅伝競走」に関東学連選抜の選手として出場
- 渡邊慎也助手(理・電気電子工)の「電子科学技術及びその応用に関する優れた独創性ある研究」に対して研究助成金が贈呈
- 入学検定料・入学金・授業料などの振込みにあたって

07年1月

- 2007年度オープンキャンパス、社会人のための大学・大学院説明会の日程が決定
- 法学研究科私法専攻・公法専攻説明会開催のお知らせ
- 法学研究科ビジネス法務専攻修士課程・博士後期課程説明会開催のお知らせ
- 法学研究科ビジネス法務専攻2007年度入試最終説明会開催のお知らせ
- 本学スキー部 嘉部恵梨奈さんが第23回ユニバーシアード冬季競技大会で3位に



経済学部 高橋 重雄 教授

許可を得てアド・グル活動を始めました。近年能楽堂へ行く若い人も多いのですが、青学でも興味をもってくれる人がいて嬉しいです。

月1回程度の稽古ではたいしたことはできないのですが、あくまでも体験を通した紹介というのがアド・グルの主旨です。活動を開始して2年目になり、それでは物足りないというアド・グル生もでてきて、担当者としては嬉しい限りです。しかし今以上の指導は困難なので、こうした意欲のある人は知り合いのいる他大学の能サークルに受け入れてもらいました。そこではプロの能楽師の指導を受けることもできます。その一方で、年に数回程度参加するだけのアド・グル生も歓迎しています。各人の興味の度合いに応じ、個別対応ができるのもこのアド・グルの特徴のひとつです。

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

- なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課
 事務取扱窓口 相模原キャンパス→学生生活グループ